



## 同窓会活動に参加して 25年余

三ツ橋 史緒子 (高22回)

### 在京同窓会との関り

1997年、在京飯田高校同窓会の幹事を高12回と私たち高22回が担当しました。これを機に、同窓会の仕事に関わることとなりました。当時40代半ばの私にすれば、役員をされていた方々はおじいさんばかり。身の置き所が分からず、おろおろしていた記憶があります。見かねた先輩方が声をかけてくださり、何とか馴染めていきました。途中、体調不良で十分な活動ができない時期もありましたが、同窓会活動に参加して25年余。その活動との関りをまとめてみました。

### ホームページ公開と その後の管理運営を担って

1998年に在京飯田高校同窓会のホームページが公



●みつはし・しおこ  
上郷町出身。高校時代体育の授業時間中によく泳いだことが以後のスポーツ愛好のきっかけとなる。医学図書館に42年間勤務。就職当初がコンピュータ普及時期と重なり、パソコンの各種アプリケーションを学ぶ。

開されることになりました。当時の佐々木康夫事務局長（高15回、前在京同窓会会長）から依頼があり、私が担当することになりました。ホームページ作成に関しては全くの素人でしたが、マニュアル本を読みながら工夫して作り上げていくことが好きだったので、何とか公開と管理運営できる形を整えました。現在はホームページ管理部会長を担っています。運営・管理上の問題は、本部のホームページ管理者に相談に乗っていただきますが、基本的に一人で維持管理を担っていますので、在京役員の方々に相談しながら遂行しています。公開当初は、「Wikipedia」というアプリケーションを使用していましたが、その後、「WordPress」に移行しました。

目下の課題は、会員の皆さんの活動をより多く発信していくことです。近著紹介やコンサート、展示会、講演

会、ミニ同窓会などの紹介や案内を気軽に投稿してください。  
さ。

## 『稻穂』の創刊号から編集委員に参加

2004年の『稻穂』創刊号の第1回編集委員会が開催されたところ、佐々木事務局長から編集委員を仰せつかりました。初めて参加して愕然としたのを覚えています。当時の編集委員はライター、エディター、デザイナー、出版社勤務など出版関係に携わるプロ集団でした。そして、機関誌を作ろうという熱い熱気。それまで、図書館司書として書籍を利用する側にあつたのですが、突如制作側に巻き込まれた思いでした。しかも、年齢的にも大先輩ばかり。本当に続けられるのか？ この中で自分の立ち位置はあるのか？ 考え込んでしまいました。

そこで、私が参加する意味をあれこれ考えてみました。まず、ホームページ管理担当として情報収集を行うこと。そこから、同窓会がどう活動しているかを知ること。企画、提案はプロの皆さんに任せて、会議の片隅でそつと居座ることに決めました。

その後、さらに強力なマンパワー、若い力を得て、年々『稻穂』は充実したものになってきています。校正に関わりながら、毎号、同窓生の皆さんの地に足の着いた生

き方や人生観、広い視野を持った活動に感動しています。この流れの中で、いつの間にか在京同窓会の事務局も担当することになりました。編集作業や事務局の活動を通して同窓会活動がどのように行われているかはよく理解できました。若い後輩たちの参加も増え、活力もアツプしてきています。ホームページ担当としては、機会あるごとに情報収集と発信のPRを続けています。同期生間のグループメールでは、『稻穂』も話題となることが増えてきました。私にとっては、大きな後押しとなる力です。また、本部同窓会には、事務局をはじめ数人の同期生が役員を務めています。彼らとも連携を取りながら、同窓会運営に寄与していければと考えています。



ホームページで使用した書類の一部  
上段：レイアウトは、デザイナーのお力でスッキリとまりました  
下段：3年越しの50周年記念に尽力してくれた幹事の皆さんに感謝！